

ICT技術導入で救急活動を強化 救急医療支援システムの本格導入

高齢化や救急業務の高度化及び多様化を背景に、救命効果の低下及び救急需要の増大に伴う労務負担の増加を改善するため、市内の全救急隊6隊へ救急医療支援システム（NSER Mobile）を導入し、救急活動の効率化を図ります。



システム使用イメージ

1 本格導入日

4月12日（金）

2 内容

救急現場において、救急隊がモバイル端末に入力した文字や画像等の傷病者情報を医療機関に送信し、情報共有を行うことができます。

3 情報共有する医療機関

秦野赤十字病院、杏林会八木病院、独立行政法人国立病院機構神奈川病院、JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院[※]、東海大学医学部附属病院[※]

※ 本格導入に伴い、新たに追加した医療機関

4 期待される効果

- (1) 救命効果の向上及び後遺症の軽減
- (2) 傷病者情報の共有による迅速な治療体制の構築
- (3) 症状に適した医療機関への救急搬送
- (4) 救急隊の活動時間短縮
- (5) ICT技術を活用した救急業務の高度化

5 参考

本格導入にあたり、令和5年4月19日から令和6年3月29日まで実証実験を行いました。

問い合わせ

消防管理課救急救命担当

電話0463（81）8020